

7月 乳幼児の健康診査 ☎ネウボラ課 母子保健担当 ☎424-9087

乳幼児健康診査の受診方法は集団健診になりますが、受付時や健診中の混雑を緩和し、新型コロナウイルスを含む感染症の拡大を防止するため、受付時間を指定してのご案内となります。

各健診の対象者には通知をしますので、詳細は通知文でご確認ください。

また、ご希望の方は引き続き個別健診も選択できますので、通知が到着後担当へご連絡ください。

個別健診・女性特有のがん検診・集団健診実施のお知らせ

☎健康保険医療課 ヘルスサポート担当 ☎424-9128(平日8:30～17:15)

令和4年度個別健診は7月1日(金)から、女性特有のがん検診は8月、集団健診は9月から始まります。詳しくは市HP、又は「健康ガイド(成人版)」をご覧ください。

▶個別健診(医療機関で受診する健(検)診)

☎7月1日(金)～12月31日(土)

(胃・乳・子宮がん検診は令和5年1月31日(火)まで)

☎直接、個別健診契約医療機関へ連絡の上、受診してください

▶女性特有のがん検診(女性限定の集団健診)

☎8月6日(土)～8日(月)

●申込みは終了しているため、キャンセル待ちのみとなります

キャンセル待ち受付／7月1日(金)～8月1日(月)平日9:00～17:00

に電話(☎0120-565-477)で

▶集団健診

☎9月1日(木)～6日(火)

☎7月14日(木)～18日(月・祝)9:00～20:00に

電話(☎03-4330-3113)又はWebで

●9月4日(日)～6日(火)分は7月15日(金)から申込み開始

キャンセル待ち受付／7月26日(火)～8月25日(木)に電話で

個別健診実施
医療機関一覧
(市HP)



女性特有のがん検診
申込Webサイト



集団健診申込
Webサイト



熱中症予防対策・まちのクールオアシス

☎健康保険医療課 ヘルスサポート担当 ☎424-9128(平日8:30～17:15)

市では、まちのクールオアシス事業として、外出時の一時的休憩所・高温時の避難所として市内各公共施設などを開放しています。

▶「熱中症予防5つのポイント」を気をつけましょう

- ① 高齢者は上手にエアコンを
- ② 熱くなる日は要注意
- ③ 水分はこまめに補給
- ④ 「おかしい!？」と思ったら病院へ
- ⑤ 周りの人にも気配りを

市HP▶



RSウイルス感染症

朝霞地区医師会 いわ い よしあみ ☎464-4666



RSウイルスを一言で言うと「赤ちゃんが感染すると悪くなりやすい風邪のウイルス」です。季節によっては小児科の入院患者さんの半分以上がRSウイルス感染症ということもあり、小児科医にとっては天敵のようなウイルスです。以下ではQ&A形式でRSウイルス感染症について説明させていただきます。

Q RSウイルスはいつ頃流行しますか？

A 以前は秋口から感染が出始め、冬にピークとなり、春にかけて感染者が減っていくという流行パターンを示していました。しかし、近年は流行時期が前倒しになる傾向があり、ここ数年は夏ごろから流行り始め、秋ごろにピークを迎えています。2021年は夏に感染のピークを迎えており、年によって流行時期は多少変動します。

Q RSウイルスに感染するとどんな症状がでるのでしょうか？

A RSウイルスは一般的な風邪やインフルエンザと同じように、子供から大人まで全ての人に感染し、人生の中で一度きりではなく、生涯にわたり何度も繰り返し感染します。ただし、その症状は患者さんの年齢や持病の有無により大きく異なります。健康な大人や年長児が感染すると鼻水、咳などのちょっとした風邪症状で終わることも多いのですが、低年齢の子供が感染すると、ウイルスの影響が気道の奥まで進んでしまい、細気管支炎、肺炎を発症することがあります。こうなると、ゼイゼイしたり、呼吸が苦しくなったりしてしまいます。多くの子供は2歳までに初めてのRSウイルス感染を経験するといわれていますが、初めてのRSウイルス感染では30%程度で下気道感染(細気管支炎や肺炎など)を発症し、1-3%は入院治療を要するといわれています。

日本脳炎の定期(法で定められた)予防接種はお済みですか？

日本脳炎の定期予防接種は、通常3歳で接種を始め、7歳6か月未満までに計3回接種する1期と、9～13歳未満までに1回接種する2期があります。なお、平成17～21年度の積極的な勧奨の中止による特例措置の学年もあります。母子手帳で接種履歴を確認し、接種が終わっていない方は、市指定医療機関で接種を受けましょう。

▶特例措置の場合

☎平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれ

接種期間・回数／

20歳の誕生日の前日までに、1・2期の計4回接種。ただし2期としての接種は9歳以上。20歳を越えた方は定期接種扱いとはなりません

▶通常の場合

☎生後6か月以降(標準的な接種開始時期は3～4歳)

接種期間・回数／1期(7歳6か月未満まで)に計3回。2期は9～13歳未満に1回

1期初回:6日以上(標準的には28日まで)の間隔をおいて2回

1期追加:初回2回目から標準で約1年後(急ぐ場合は6か月以上後)に1回

●平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの方の1期接種不足分については7歳6か月未満、又は9～13歳未満での期間で接種可能。7歳6か月以上9歳未満の期間で接種した場合は、定期接種扱いとはなりません

●予防接種予診票が必要な場合、母子手帳(接種履歴)を保健センター窓口に持参してください。確認後、予診票を配布します

●定期予防接種は、定められた条件(年齢、接種間隔・回数、指定医療機関、接種日現在の住民登録など)を外れると、全額自己負担となります

●不明な点は、必ず接種前に、保健センターへお電話を。接種後の対応はできません

蚊を介する感染症の予防対策

～感染症流行地域へ渡航する場合には万全な対策を～

☎埼玉県保健医療部 感染症対策課 ☎048-830-3557

これから蚊が発生する季節を迎えます。ウイルスなどの病原体に感染した方や動物の血を吸った蚊に刺されることで、さまざまな感染症にかかる恐れがあります。一人ひとりが、感染症の流行地域で蚊に刺されない、住まいの周囲に蚊を増やさない対策(おおむね10月下旬頃まで)をすることが重要です。

●海外へ渡航する際には、渡航前に現地での流行状況を把握しましょう。もし蚊を媒介とする感染症の流行地域へ渡航される場合には、蚊に刺されないように万全な対策をしましょう

●屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されない対策をしましょう

●蚊は、植木鉢の受け皿や屋外に放置された空き缶に溜まった雨水など、小さな水たまりで発生するので、日頃から住まいの周囲の水たまりを無くすように心がけましょう

余談ですが、新型コロナウイルスの初期の報告の中には、5歳未満の新型コロナウイルスの致命率はRSウイルスよりも低いというものがありません。小さな子供にとっては、毎年流行するRSウイルスの方が実は怖いウイルスだったという見方もできるのかもしれませんが。

低年齢の子供以外でも心臓の病気、免疫力が低下する病気、遺伝的な体質をお持ちの方、早産児などはRSウイルスに感染すると重症化しやすいといわれています。

Q RSウイルス感染症はどのように診断しますか？

A 迅速抗原検査での診断が一般的です。綿棒で鼻の中、の鼻汁をぬぐい、ウイルスの有無を確認します。使用するキットによって時間は異なりますが、10分程度で結果がでることが多いです。外来診療において、迅速抗原検査の保険適応は1歳未満の子供、重症化リスクが高い子供に限られています。

Q RSウイルスの予防対策はどのようなことができますか？

A RSウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染の2つです。飛沫感染では、感染している人が咳や会話をした際に周囲に飛び散る唾液により、感染が広がります。先にも書いた通り、大人にとっては軽い風邪であっても、小さな子供が感染すると重症化することもあるので、小さな子供が近くにいて風邪症状がある場合はマスク着用を心がけるようにしましょう(赤ちゃん自身のマスク着用は危険なのでやめましょう)。接触感染ではウイルスが含まれた唾液などを直接的、間接的に触れることで感染が広がります。ウイルスは目に見えるものではないため、物を介しての間接的な接触感染が見落とされがちです。RSウイルスはコップ、ドアノブ、手すり、おもちゃなどの表面に付着すると数時間生存し、ティッシュペーパー、皮膚の表面でも数十分は生存します。RSウイルスが付着したものを触った手で目や鼻を触ると感染してしまう可能性があるため、普段から手洗い、手指消毒を行うことが大切です。